

江東区協働事業提案制度 令和元年度実施事業報告書

江東区で実施している協働事業提案制度で平成30年度に採択され、令和元年度に区と協働で実施した「ブラウンバッグ推進活動」事業について、実施団体から受けた事業報告および江東区区民協働推進会議委員からの意見を報告します。

[目次]

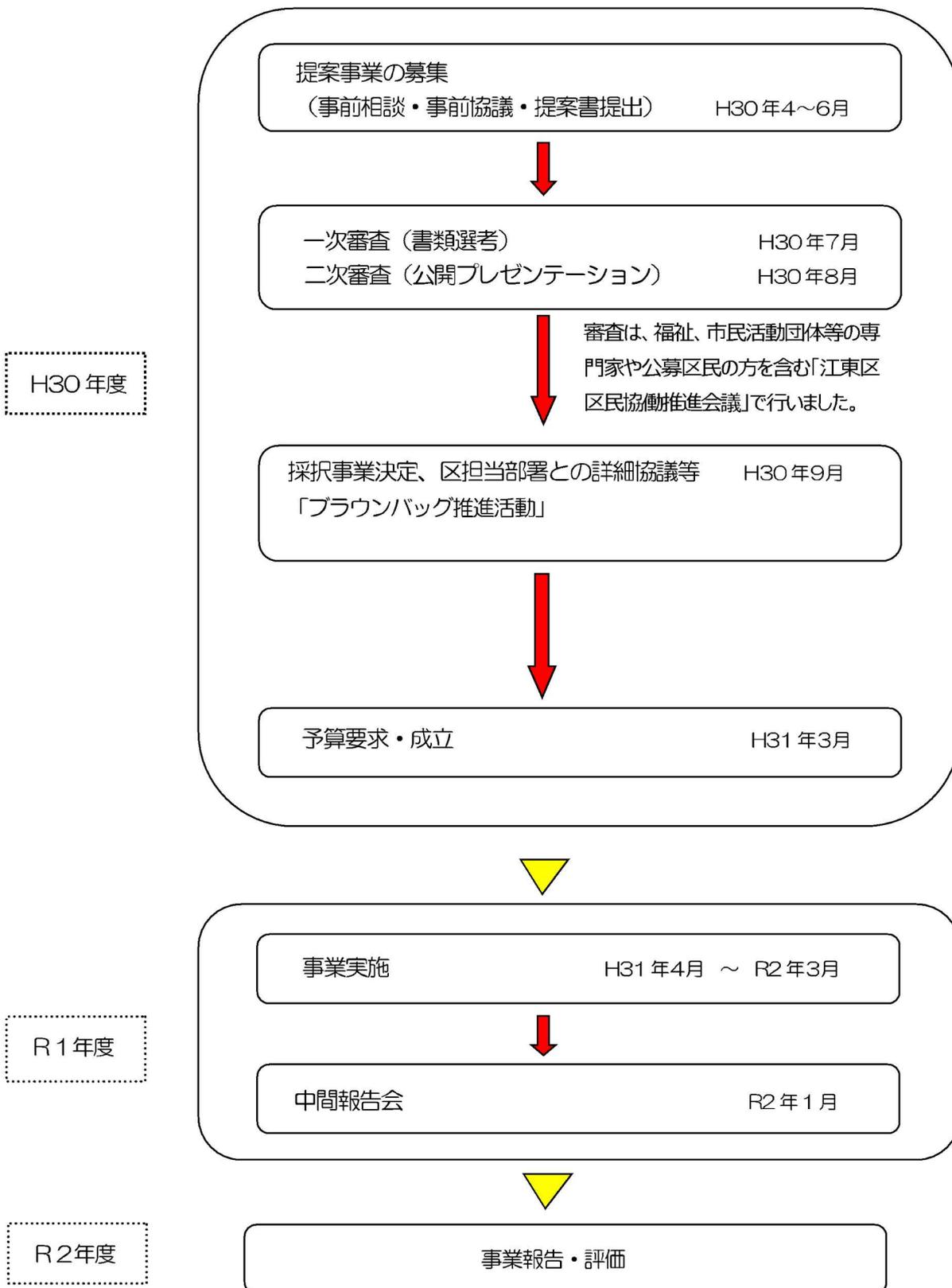
1	江東区協働事業提案制度概要	1
2	江東区区民協働推進会議委員名簿	2
3	協働事業結果報告書	3
4	江東区区民協働推進会議委員意見書	8

江東区地域振興部区民協働推進担当

1 江東区協働事業提案制度 概要

地域で活動する市民活動団体等の皆さんから、区と共に取り組むことで「こんな課題を解決できる」「よりよいまちをつくることができる」といったアイデアを、協働事業として募集します。

この制度によって選考され採択された事業は、提案団体と区が協議を重ね、協働により事業を実施します。



2 令和2年度 江東区区民協働推進会議委員名簿

◎…会長 ○…副会長

学識経験者	◎ 安藤 雄太	東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー
	大島 隆代	早稲田大学人間科学部 准教授
中間支援組織	○ 枝見 太郎	一般財団法人富士福祉事業団 理事長
区民	名取 正	公募委員
	星 明憲	公募委員
市民活動団体	中安 敬子	特定非営利活動法人マザーツリー自然学校 理事長
産業団体	石塚めぐみ	東京中小企業家同友会 江東支部 副支部長
公益活動団体	久保 雅美	社会福祉法人 江東区社会福祉協議会 江東ボランティア・センター所長
	篠原 徹	公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団 管理課長
区職員	伊東 直樹	地域振興部長

令和2年4月30日

江 東 区 長 宛

団 体 名 一般社団法人 江東区薬剤師会

団 体 所 在 地 大島2丁目41番16号文洋ビル702

代表者職・氏名 会長 外山和宏

協働事業結果報告書

平成30年度江東区協働事業提案制度採択事業の実施について、次のとおり報告します。

事業名称	ブラウンバッグ推進活動
事業の実施期間	平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日
実施事業の概要 ※詳細については「具体的事業内容」に記入し、ここでは要約して欄内に収まるように記入してください。	昨今、医療費が増大し国民皆保険制度の破たんに繋がるのではないかと懸念されている。『残薬問題』が原因の一角を占めている。自宅で治療している高齢者だけでも年間500億円を超える薬剤が残薬となり破棄されている。また、残薬は誤服用の原因ともなり健康被害を起こしかねないと危惧されている。この残薬は薬局に持ち込むことで処方医の承認を取り処方日数を減らすことが出来るシステムになっている。処方日数を減らすことにより窓口で支払う一部負担金はもとより保険者の支出も削減できる。本事業はこのシステムを周知実行することを目的とした。
具体的事業内容 ※実施時期・従事者・参加者・実績などを具体的に記入してください。詳細を別紙として提出することも可能です。	<ul style="list-style-type: none">● 啓蒙ポスターを作成し全会員薬局に掲示● パンフレットを作成し店頭で配布● 削減実績を集計するためのフォームを作成● ブラウンバッグを作成し協力店を募集● 現段階で58店が参加表明● 協力店1店舗当たり50枚のバッグを配布● 区報への2度の掲載● 削減実績の集計を開始● 追加希望の店舗へバッグを補充

<p>事業の成果</p> <p>※この事業で取り組もうとした課題は、どこまで達成できましたか。</p>	<p>薬局で残薬の相談が出来る事の周知度は現段階で数値化出来ないが会員からはかなりの手応えを実感しているとの声が上がっている。</p> <p>事業展開後 10 か月半で 93 件の残薬調整報告が上がった。削減金額も 30 万円を超えた。新型コロナウイルス感染症の渦で調剤業務も混乱している中で誤服用の抑止の報告もあり残薬処理に伴って効果を上げている。</p> <p>また、バッグ無しでもポスターを見て相談に来る方もいらした。直接残薬をお持ちになる方もいらした。</p> <p>企画段階で想定していたバッグの配備に宅配便等を使わず参加会員自ら取りに来たり理事を中心として配送を行ったりする事で経費を節減できた。</p>
<p>協働の効果</p> <p>※区と協働したことによって、どのような効果が得られましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当の方から他区の情報を得る事ができた ● 区報へ掲載することで多くの問い合わせがあった。 ● 担当の方と打ち合わせを重ねることで洗練されたバッグを作成できた。 ● 予算化することで高品質のバッグを作成できた。
<p>今後の活動展開</p> <p>※この事業で取り組んだ課題に対し、貴団体は今後どのような活動を展開していきますか。</p>	<p>単年で終了する事業と異なり今後の継続性が期待できる。よって累積される効果も期待できると考える。また薬剤師会でも期待に応えられるよう継続・拡張して行くため薬剤師会オリジナルのブラウンバッグ作成やポスターの作成等検討している。患者様へのアンケート調査を検討している。</p>
<p>自由意見</p> <p>※事業実施を通じて気づいたこと（新たな課題、実施体制、参加者の声等）を記入してください。</p>	<p>今後薬剤師会単独でブラウンバッグやポスターを制作する際のキャラクターに『コトミちゃん』を使える事を希望している。</p> <p>今後参加薬局数を増やしたいと考えている。</p> <p>ブラウンバッグの実稼働数に比べ削減報告書の提出率が低く集計方法の改善を検討している。</p> <p>医師会・歯科医師会とも協働で活動を展開できる形を模索している。</p> <p>ブラウンバッグを新たに作成する際に今後実施される「レジ袋有料化」に伴い「生分解袋」や「バイオマス袋」、「紙袋」を検討している。</p>

※ 事業の成果物（冊子等）、参加者アンケートの結果、写真など、提出できるものがある場合は添付してください。なお、ご提出いただいたものは返却できません。

啓発ポスター



キーホルダー



ブラウンバッグ



協力申込み薬局一覧

店舗名	所在地	郵便番号
ひなた薬局	住吉1-19-1-119	135-0002
三森龍天堂薬局	森下2-20-12	135-0004
ヒロ薬局さくらペー	扇橋2-1-3-1F	135-0011
松田薬局 扇橋店	扇橋3-5-7	135-0011
ヒロ薬局	千田6-10	135-0013
さいとう薬局 みなみ店	東陽3-2-10	135-0016
齊藤薬局(東陽)	東陽3-5-6	135-0016
さち薬局	東陽4-8-22-1F	135-0016
大竹薬局 清澄白河店	白河1-1-5	135-0021
みよし薬局	三好2-8-10	135-0022
牡丹薬局	牡丹3-7-4	135-0046
くるみ薬局	富岡1-13-11	135-0047
遠山薬局	富岡1-9-10	135-0047
大栄薬局	門前仲町2-6-4	135-0048
枝川薬局 本店	枝川1-6-12	135-0051
りゅう薬局	豊洲4-9-13-132D	135-0061
沢真薬局	豊洲5-2-10	135-0061
江東とよす薬局	豊洲5-6-29	135-0061
そうごう薬局 豊洲店	豊洲5-6-29	135-0061
杉下薬局	亀戸3-2-12	136-0071
なの花薬局 亀戸店	亀戸4-18-4	136-0071
そうごう薬局 亀戸駅前店	亀戸5-3-2-1F	136-0071
サン薬局	亀戸6-12-1	136-0071
象山薬局	亀戸6-12-9-1F	136-0071
のぞみ薬局	亀戸6-13-3-1F	136-0071
和光薬局 西大島店	大島1-33-15	136-0072
西大島薬局	大島1-36-5-1F	136-0072
原田薬局 西大島店	大島3-4-3	136-0072
サンコウ薬局	大島4-1-6-106	136-0072
うさぎ薬局 大島店	大島5-36-7-1F	136-0072
あい薬局	大島5-5-5	136-0072
たんぼぼ薬局 大島店	大島5-7-2	136-0072
とまと薬局	大島6-9-11	136-0072
齊藤薬局(大島)	大島7-11-1	136-0072
ひかり薬局	大島7-1-19	136-0072
平田調剤薬局	大島7-36-4	136-0072
平田薬局 東大島店	大島7-39-1-105	136-0072
松田薬局	大島8-5-2	136-0072
エンジェル薬局 東大島店	大島9-3-1-1F	136-0072
外山薬局	北砂2-1-20	136-0073
ニスモ薬局	北砂2-6-6	136-0073
原田薬局	北砂3-14-20	136-0073
柳屋薬局	北砂3-35-21	136-0073
枝川薬局 支店	北砂4-40-13	136-0073
さかい川薬局	北砂4-4-14	136-0073
仁生堂薬局 本店	北砂5-15-6	136-0073
東砂パール薬局	東砂2-5-7	136-0074
ことぶき薬局	東砂3-14-1	136-0074
マリー薬局	東砂4-15-10	136-0074
地球堂薬局	東砂5-1-12	136-0074
タイム薬局	東砂5-3-14	136-0074
外山薬局 南砂店	南砂1-10-2	136-0076
かちどき薬局 砂町店	南砂1-25-13	136-0076
ファミリー薬局 東陽町店	南砂2-6-3	136-0076
ダイカツ薬局	南砂3-5-9	136-0076
メイプル薬局	南砂4-18-3	136-0076
丹生堂薬局本店	南砂5-3-5	136-0076
つかさ調剤薬局	南砂7-4-3	136-0076

残薬対策に「お薬相談バッグ」を配布中

「ブラウンバッグ」推進活動

平成30年度の協働事業提案制度の採択事業である「ブラウンバッグ推進活動」では、江東区薬剤師会と連携し、「お薬相談バッグ」を配布し、医薬品の適正使用に取り組んでいます。飲み忘れなどで自宅に残されている残薬は、年間400〜500億円と推計されています。医療費の適正化の観点から残薬を適

正かつ有効に管理していくことが必要です。

江東区薬剤師会加盟薬局で配布する「お薬相談バッグ」に、飲み残しや使い切れなかった薬（残薬）とお薬手帳を入れて、調剤薬局にお持ちください。薬剤師が内容を確認し、不適切な使い方や飲み合わせ、飲み残しの残薬がある場合には、処方し

た医師との調整を行います。窓口でのお支払も削減できます。

※加盟薬局は区ホームページをご覧ください。

☎「事業概要に関すること」
医療保険課医療保健係

☎(3647)8516
FAX(3647)8443

☎「お薬相談バッグの配布に関すること」江東区薬剤師会

☎(6912)6110
FAX(6912)6221

協働事業提案制度採択事業

「ブラウンバッグ」推進活動

残薬対策や医療費の節約に「お薬相談バッグ」を配布

平成30年度の協働事業提案制度の採択事業である「ブラウンバッグ推進活動」では、江東区薬剤師会と連携し、「お薬相談バッグ」を配布し、医薬品の適正使用の取り組みを行います。自宅に残されている残薬は、年間500億円と言われています。残薬対策事業により、医療

費の節約・削減、残薬の誤飲や不適切服薬による副作用の防止を目指します。

江東区薬剤師会加盟薬局で配布する「お薬相談バッグ」に、飲み残しや使い切れなかった薬（残薬）とお薬手帳を入れて、調剤薬局にお持ちください。薬局では残薬の量や状態を確認し、

再利用できる場合には医師と連携し、処方量の調整を行います。窓口でのお支払いも削減できます。

☎「事業概要に関すること」
医療保険課医療保健係

☎(3647)8516
FAX(3647)8443

☎「お薬相談バッグの配布に関すること」江東区薬剤師会

☎(6912)6110
FAX(6912)6221

☎「お薬相談バッグの配布に関すること」江東区薬剤師会

☎(6912)6110
FAX(6912)6221

江東区協働事業提案制度 令和元年度実施事業
江東区区民協働推進会議委員意見書

事業名	ブラウンバッグ推進活動		
団体名	一般社団法人 江東区薬剤師会		
担当課名	医療保険課	関係課	—

事業費 (予算額)	2,016,252円 (2,129,854円)	行政	1,920,000円
		団体	96,252円

◆ 江東区区民協働推進会議 委員意見 ◆

- ・協働することにより、「残薬は再利用できる」「窓口負担を減らせる」ということをより広く周知できたことは評価できる。
- ・高齢者にとって、地域とのつながりは大切なものであり、薬を介してコミュニケーションがとれるというのは意義がある。手間のかかる活動とのことであるが、さらに活動が発展することを期待する。
- ・薬局の存在意義が感じられた協働事業であった。今後はかかりつけ薬局としてより患者に身近な存在となることを期待する。
- ・普及していくことでより高い効果が期待でき、事業規模拡大により、外部機関を用いた事業効果の試算などが可能になる。今後の継続的かつ広域的な取組が望まれる。
- ・本事業は、継続性と事業の拡張が重要になる。協働事業として取り組んだ結果、さらに国レベルに広がることに期待する。
- ・本事業は様々な効果を持つ事業であり、薬剤師会の活性化にもつながると思う。今回の事業展開では、一部にとどまっているが、今後事業報告、啓発普及活動等を通じ、更なる成果を期待する。
- ・今後介護事業関係と情報共有できると、さらに深みのある事業に発展するのではないかな。
- ・残薬に関する社会的リスクの意味を広く啓発していくという目標を明確化して活動を展開する必要があるのではないかな。薬剤師会として医療費削減に向けた別の取組方法へのアプローチを期待したい。

◆ 江東区区民協働推進会議 総合意見 ◆

薬の適正服用は患者にとって大切な健康管理である。身近に相談に乗れる仕組みが高齢社会の中では必要不可欠になっており、その意味からも、今回の薬剤師会からの協働事業提案は時宜を得た内容と言える。

実際の取組では各薬局との連携など課題があったものの、行政との連携や役割分担などを更に密にすることで改善することも考えられる。一方、残薬を減らすことは患者の健康管理はもとより、医療費の抑制の視点からも重要な取り組みである。その意味からも区民はもとより医療、介護、民生児童委員など関係者や団体等にこの取り組みの意義を含めて理解をもらうための広報活動等は欠かすことはできないであろう。今回の取組はパイロット的实践であったものの、通常の施策の中で、その推進を位置づける必要があるといえる。また、この事業が薬剤師会だけの実践ではなく、地域の関係団体のネットワークを含めた取り組みとして求められるところでもある。

なお、今回の協働プログラムが、都が実施する後押しの一つとなったことはローカル発の取り組みとして大きな成果の一つともいえる。

今後この事業を推進するには、単にバッグを持たせればよいというものではなく、バッグを持つことによって患者に薬の誤服用や飲み忘れなどの防止を意識させるとともに、薬局や介護者等が服薬の確認ができるものとし、安易なバッグではなく長時間使用できるバッグとして普及させることが必要といえる。さらに、街の中の身近なよりどころとしての調剤薬局のあり方が変わっていくことを期待したいところである。